

哲學研究

第四十六卷 第十一册

第五百四十一號

昭和五十五年十二月二十日發行

視覚の生態……………柿

——心理学的知覚論への一試考——

《芸術の終焉》と《芸術の可能性》……………岩

——ヘーゲル美学の解釈について——

伝達の可能根拠について……………小

——Confessions, XI, 3, 5——

「構造的発展における哲学」

としての体系……………船

——西田哲学とヘーゲル

哲学との対立点——

彙報

京都大學文學部内
京都哲學會

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために左の事業を行う
 - (一) 會誌「哲學研究」を發行する
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 隨時研究會を開く
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく
委員は京都大學文學部哲學科教官及び委員會において推薦したものに委嘱する
- 一、本會は贊助員若干名をおく 贊助員は會員の中から委員會が推薦する
- 一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けない 學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することができる
- 一、會員は會費として年三、六〇〇圓（會誌四冊分を含む）を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、規約の改正は委員會の決定による

京都哲學會役員

委員

吉岡健二	湯淺幸	山田美都	森口美良	本吉良	宗像	水垣	宝月	藤澤	平野	服部	長谷正	西谷裕	中村久	辻原	竹原	清水井	清原	酒井	木曾	梶山	上田	池田	
郎	孫	晶	男	治	惠	涉	誠	夫	二	明	当	作	郎	一	一	三	修	能	一	照	三		

謹
告

京都哲学会は、昭和五十一年七月に会費を値上げして以来、会費の現状維持に百方努力して参りましたが、が最近、特に昨年秋以後、会誌制作費（紙代・組代・刷代）の高騰はいちじるしく、遺憾ながら本号（五四一号）より従来
の会費——一年分二、〇〇〇円（会誌三冊分）——を、三、六〇〇円（会誌四冊分）に値上げするのやむなきにいたしました。ここに会員諸賢の御了承と
いっそうの御激励とをお願い申しあげます。

なお、市販の場合の定価は一冊九〇〇円——従来は七〇〇円——となり、
現在までお預りいたしております会費は、右に準じて清算させて頂きますの
で、併せて御承知下さいますよう、お願い申しあげます。

- (114) derselbe: Die Gegenwärtigkeit der Kunst. S. 261-2. (11) ibid., S. 264. () 内は筆者。
- (116) (117) ibid., S. 265. () 内は筆者。(118) ibid., S. 266. (119) ibid., S. 267. () 内は筆者。
- (120) ibid., S. 267. (121) ibid., S. 268. (122) G. Lukács: ibid., S. 46.
- (123) D. Henrich: Zur Aktualität von Hegels Ästhetik. Überlegungen am Schluß des Kolloquiums über Hegels Kunst-philosophie.—In: Hegel-Studien. Beiheft. 11. S. 301. (ハンリッヒが「フランクフルト学派」特リマルクーヤダゴングの中心に解釈している)。

- (124) Hegel: Philosophie der Geschichte. (クーゲル『歴史哲学』武市健人訳、岩波書店、三〇頁)。
- (125) 茅野良男「ヘーゲルの歴史観」、『理想』三七七号、一九六四年)。

(筆者 京都市立芸術大学美術学部講師)

次 号 論 文 予 告

記憶の二過程……………平野俊二 アリストテレスにおける個別 と普遍……………浅野橋英 ——『形而上学』M巻一〇章 の問題を中心として—— 直観と総合……………岡村信孝 T・パーソンズにおける「合議制的 アソシエーション」と「専門職」 をめぐって……………溝部明男 ——故タルコット・パーソンズ 教授を偲ぶ——	平野俊二 浅野橋英 岡村信孝 溝部明男
--	------------------------------

仏 教 学

五島清隆 “Brahmavisesaciniparipiccha” に ついて

キリスト教学

掛川富康 K・バルトに於ける教義と解釈の問題

心 理 学

石井 徹 二つの self-consciousness 及びその責任の
帰属に及ぼす影響について

宮原清水 Cyclofusion における vertical disparity
cue について

山口正弘 ラットの視覚行動における上丘損傷の効果

山下博志 DRLスケジュールにおけるハトの行動
—— multiple schedule による分析 ——

社 会 学

中河伸俊 逸脱行動の統制理論

美学美術史学

岡田温司 変革期のフイレンツェ絵画
——その生成と連関——

林 愛子 芸術体験の現象学的考察

松本 透 アロイス・リーグルの芸術意志説について

斎藤裕司 カントにおける構想力

〔附 記〕

博士課程単位修得者研究論文要旨の提出は、京都大学
大学院文学研究科の規程改正により、昭和五十一年度の
進学者をもって、終了いたしました。

前 号 目 次

現実活動態(下)……………藤 澤 令 夫

——アリストテレスにおける
キーネーシス(あるいは運動
の論理)とエネルゲイア)あ
るいは活動の論理)との対置
について——

知識学と「弁証法」……………長 澤 邦 彦
——一七九四年の『基礎』を
中心に——

ダルマキールティのアポーハ論……………赤 松 明 彦

基督教学

- 講義 助教授 水垣 涉 ※キリスト教の成立
- 研究 助教授 水垣 涉 信と知 [共]
- ” 講師 佐藤 吉昭 ラテン教父の諸問題 [共]
- ” 講師 山村 敬 東方ビザンチンの哲学と神学(西洋哲学史と共通) [共]
- ” 講師 金子 晴勇 近代自由思想の源流—エラスムスとルターの論争—(西洋哲学史、宗教学と共通) [共]
- ” 講師 佐藤 泰正 日本近代文学とキリスト教(國語学国文学と共通) [共]
- 演習 助教授 水垣 涉 Origenes: De principis IV [共]
- ” 講師 秦 剛平 古典ヘブライ語文法および創世記原典の講読と釈義(西南アジア史学と共通) [共]
- ” 講師 遠藤 彰 ヨハネ福音書原典の講読と釈義 [共]
- ” 講師 小池 三郎 Augustinus: De libero arbitrio, 第2卷(前年度の続め)(西洋哲学史と共通) [共]
- ” 講師 川村 永子 S. Kierkegaard: Abschliessende unwissenschaftliche Nachschrift

” 講師 片柳 栄一 R. Bulmann: Glauben und Verstehen I [共]

会告

このたび、阪本財団から、京都哲学会へ、昭和五十五年度の「哲学研究」刊行のために、多額の補助金を頂戴いたしました。ここに深甚の謝意を表しますとともに、あわせて、会員各位に御報告申し上げます。

京都哲学会

昭和五十五年九月

會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區吉田京都大學文學部内京都哲學會（振替口座京都四〇三九番 京都哲學會）宛に規定の會費（年三、六〇〇圓、但し、會誌四冊分）をお拂込下さい

又會員への會誌送付、バックナンバー購入及び發賣に關する一切は東京都千代田區一番町一七番地創文社（振替口座東京二一九二四七二番）宛に願います
一、會員の轉居・入退會の事務及び編輯事務の一切は京都哲學會宛に御通知下さい

一、本誌の編輯に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛にお送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和五十五年十二月十五日 印刷
昭和五十五年十二月二十日 發行

編輯兼 發行人 京都大學文學部内
編輯代表 京都哲學會
編輯担当 酒井修
宗 像 惠

賣捌所 株式會社 創文社

久保井理津男

東京都千代田區一番町一七番地
振替口座 東京二一九二四七二
電話東京二六三二七二〇（代表）

印刷所 曉印刷株式會社

東京都文京區関口一―二四―八

註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告掲載に關する件は「創文社」へ御申込下さい

一、本誌の御註文はすべて代金送料共（一部、定價九〇〇圓、送料・六〇圓）前金にてお送り下さい

昭和五十五年十一月二十五日發行

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES
THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XLVI

December 1980

No. 11

Ecology of Vision

—An essay on the psychological theory of perception—
……………Sukeichi Kakizaki

Das Ende der Kunst und die Möglichkeit der Kunst

—Von der Interpretation der Hegelschen Ästhetik—
……………Kenichi Iwaki

Über den Grund der Mitteilungsmöglichkeit

—Die Confessiones, XI, 3, 5—
……………Yoshinobu Obama

Das System als Philosophie in der strukturellen Entwicklung

—Über den Unterschied zwischen der
Philosophie Nishidas und Hegels—
……………Shinichi Funayama

Published by
THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY
(The Kyoto Tetsugaku-Kai)
Kyoto University

Kyoto, Japan